

慈湖夹阻風五首

慈湖夹にて風に阻まる

紹聖元年（一〇九四）六月の作 五十九歳。この四月英州へ左遷する命が下り定州を出発し、途中の汝州で弟蘇轍に出あって別れを告げ、金陵（今の南京）を経て、六月二十五日、当塗県（安徽省）に着いたとき、惠州（広東省恵陽県）へ流す旨の命令をうけた。

其一

捍索桅竿立嘯空

捍索かんさく 桅竿きかん 立つて空くうに嘯うそぶく

篙師酣寢浪花中

篙師こうし 酣寢かんしん す浪花ろうかの中

故應菅蒯知心腹

故もとよりまさにかんかいしんぶく菅蒯かんかいしんぶく心腹しんぶくを知るべし

弱纜能爭萬里風

弱纜じやくらん 能よ争あらせふ万里ばんりの風

【語釈】○慈湖夾：当塗県の北六十五里。揚子江の分流。○捍索：帆柱を固定するための綱。

○桅竿：ほばしら。○篙師：船頭。○酣寢：ぐっすり眠る。○菅蒯：縄を作るのに用いる草。

【解釈】綱で、しっかり左右に引かれている帆柱は、空にむかってつたつたままうなりをたてている。船頭は、たちさわぐ浪の中でぐっすりと眠っている。

綱をなつてある水草の菅蒯は、きつと船客の心の奥底まで知りぬいているにちがいない。弱々しくみえる、ともづなが、万里を吹きぬける風と、たのもし争いを続けている。

其二

此生歸路愈茫然

此せいの生せいの歸路いよ 愈いよいよ茫然ぼうぜんたり

無數青山水拍天

無数の青山水 天を拍うつ

猶有小船來賣餅

猶いお小船せうせんの来きつて 餅へいを売うる有あり

喜聞墟落在山前

喜きび聞きく 墟落きょらくの山前さんぜんに在あることを

【語釈】○茫然：あてどに迷う義。○餅：ふかしばん、せんべいの類。○墟落：村落。

○山前：山のこちらがわ。

【解釈】わが生涯のうちに故郷へ帰るあては、ますます遠のいたらしい。行く手には、数知れぬ青い山々。水は天まで打ちあげている。こんなところでも、小船がこぎ寄せ、麦せんべいを売りにくる。嬉しいのは、村里があこの山のこちらに在ると聞いたことだ。